

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
 〒 470-1192
 愛知県豊明市杣掛町田楽ヶ窪 1-98
 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
 電話 (0562) 93-2453
 FAX (0562) 93-3079
 発行責任者 竹内康浩・島 正吾
<http://www2.justnet.ne.jp/~jsoh-tokai>

(題字 皿井 進筆)



20世紀に発行されました、東海地方会ニュースを並べてみました。左上の第1号は昭和59年(西暦1984年)9月1日発行で、右に向かって順番に並んでおります。日本産業衛生学会東海地方会会長が、皿井先生から島先生へ、さらには島先生から竹内先生へとバトンを渡される状況、あるいは名古屋国際会議場で開催された第68回日本産業衛生学会総会等、表紙を見るだけでもその当時の状況がうかがえ、懐かしく感じられます。またこれらの巻頭写真は、巻頭言を執筆頂いた先生に用意していただいた写真を掲載しております。21世紀の東海地方会ニュースも歴史を刻む編集を行いたいと考えます。(編集部)

21 世紀 へ の 抱 負

竹内 康浩 (名大・医・環労衛)



戦後50年代～70年代前半には、ベンゼン中毒、二硫化炭素中毒、鉛中毒、じん肺、職業性頸肩腕障害、職業性腰痛、放射線障害など職業病が多発し、その診断、治療、保障が重要な課題で、多く職業病が研究され、その診断基準が確立されました。それに続いて、早期発見、早期対策が重要な課題となり、特殊健康診断の実施、早期診断法の開発、配置転換、環境改善、許容濃度の設定など職業病の予防対策が精力的に行われ、その結果として職業病は多いに減少しました。80年代になると、作業関連疾病 (work-related disease) の概念が強調されるようになり、従来一般疾病とされていたものに、労働条件により増加ないし悪化するものが多いこと、労働条件の改善によってこれらが予防ないし改善されることが強調されるようになりました。90年代になると、職場性健康障害の予防のために、リスク評価・リスク管理が重視されるようになり、化学物質安全性データシート (MSDS) の設置、発がん物質の衛生基準の考え方の発展など、健康への悪影響のリスクを減少させる方策に大きな努力が向けられるようになりました。また、2-プロモプロパンなど職業性中毒による生殖障害や内分泌攪乱物質が目目されるようになり、産業衛生における生殖障害が子孫に対する影響とし

て重視されるようになりました。また、化学物質過敏症やシックハウス症候群の様に、従来の量反応関係では説明しにくいために時としては排除されてきた感受性の高い人の健康障害への取り組みが重視されるようになってきています。しかし、遺伝子多形性の解析や感受性の個体差の研究の進展と共に、プライバシーの保護も大きな課題となっています。

日本産業衛生学会の会員数は急激に増加し、約7000名に達し、学会の専門医、指導医の数も着実に増加しています。企業では専任産業医、選任産業医、産業看護職など産業保健スタッフが充実し、活躍しております。戦前や戦後60年代のことを考えると隔世の感があります。しかし、大学で産業衛生の研究や教育に従事しているものとして、現在の発展のなかで、大学の産業衛生学研究の相対的弱体化、産業衛生学の質的問題、学際的な研究協力の広がり相対的な不十分さに懸念を抱いております。特に、社会的な要請に応え得る人材の養成と研究の質的な向上は、産業衛生活動のさらなる発展に不可欠で、学会挙げて取り組む重要課題と考えています。産業衛生の発展には、研究、教育、実践の有機的な連携が不可欠であり、さらに広く、科学・技術の発展、産業・経済の発展、健康に対する社会の意識状況などに大きく依存しています。この全体の係わりの中で、産業衛生はジグザグなコースをとって発展して来たとし、今後も予想を越えて、ダイナミックに発展して行くものと期待しています。



21世紀に向けて若手産業保健スタッフからの言葉



吉川 久絵 (スズキ健保組合)

「あはは、インシュリンの注射する事になっちゃったよ」いつもの様に陽気に入ってきたAさん。きつぶが良く「医者嫌いだ」が口癖。ここ数年、血糖値200をきった事がなく、いやいや行く人間ドックではいつも要精密検査。度々お会いして受診を勧めていたのですが、とうとう人間ドックに行ったその日に入院を余儀なくされました。

糖尿病教室、健康づくりセミナー、そして健康相談の実施。そんな通り一遍な保健事業が、はたしてAさんのような思いをしている人たちに届いているのだろうか。約2万3千人の被保険者に同数の被扶養者。それに対する保健婦は2人。「的を絞らなくては」そんな思いでした。

3次予防から2次予防。そして今1次予防と様々な試みを行ってまいりました。人間ドック100%受診・再検査の徹底・安全衛生の推進…ここで新たな展開が必要なものも否めません。厚生省のいう「健康日本21」の策定。それぞれのライフステージに合わせた健康づくりへのお手伝い。それこそが、これから目指す保健事業なのだ…。

そして「こころ」の問題。多くの人は寛ぎや安らぎを求めています。ストレスは環境であったり、人であったり…。セルフケアの最も必要とするところ。もっと気軽にストレスへの気づきと対処ができれば…。健康・平和、そして孤独でないこと。そんな人の根にある「幸せ」に向け、一人一人へのアプローチができれば…。そんな果てしない思いでおります。



茂木 隼嗣 (静岡県産業環境センター)

作業環境測定士として六年目を迎えています。

新人の頃は、マニュアル通りに測定を行い、適切でない現場に対しては“局所排気装置の設置を”と決まり文句を言っていました。しかし、ここ数年は、環境マネジメントシステムの導入により、自然環境への配慮や省エネルギーも考えた助言が必要となっています。

また、私自身が自社の安全衛生委員を務めることになり、作業環境測定だけでなく、安全衛生面についても考える機会が増えてくると、今まで気が付かなかった所が見えてきます。例えば、作業者の作業方法とその時の結果だけを気にしていたものが、作業姿勢はどうだろうかと思うようになりました。でもまだまだ勉強不足です。

今後は更に労働安全衛生マネジメントシステムを導入する企業が増えてくるとなれば、単なる測定士ではなく、様々なニーズに応えられる測定士にならねばと思っています。



石川 浩二 (三菱重工業 岩塚健康管理室)

21世紀を迎えるにあたり、私自身の産業医としての反省及び抱負を述べさせていただきます。

専属産業医となり早2年半が経ちました。産業医になってつくづく思うことは、「理想論」のみ

では企業に通用せず、「企業が本当に求めるもの」を最優先させて柔軟に対応することが必要ということです。さらに「今何が企業に必要か」ということを念頭において活動していかなければ務まらないということです。産業医になりたての頃は、当時はそんなつもりでなかったのですが、「自分は医者だ。自分のいうことが正しい」のようなところが少なからずありました。しかしそれだけでは産業医は務まりません。時には「医者」として責任をもって企業との対決に迫られることはありますが、基本的には企業の事情に合わせた活動でなければ企業としては産業医を雇うメリットがありません。もちろん、企業の言いなりになって間違った方向に行くことは避けなければなりません。かくいう私も、未熟でようやく全貌が見えてきた状態で、問題はまだまだ山積みされています。常に問題意識をもち、優先すべきことから実践し、いち早く企業・従業員双方から本当に必要とされる産業医を目指して精進していく所存です。今後も御指導、御鞭撻のほど、よろしく御願ひ申し上げます。



鈴木 亜砂美 (名古屋鉄道)

私が保健婦として入社して、4月で3年が経ちます。入社後、様々な経験をしましたが、やっと1年間の保健活動、会社の組織、自分の立場が分かってきたと思います。

どの仕事についても言える事ですが、良い点、困難な点があります。よかった点は、よい先輩方に出会ったことです。私が今まで頑張ってきたのも、この先も可能な限り名鉄で産業保健を続けたいと思えるのも、良い指導者に恵まれたためだと思います。

難しい点は労務管理との絡みです。健康管理をしていると長欠者、メンタル不全者に対しては就業制限、勤務配慮、配置転換が必要とされる時があります。どこまでが保健婦の仕事で、どこからが労務に任せられるかなどは理解するのに経験が必要だと思います。

また、法律の改正、新しい指針、医学的知識の進歩など社会は変化していきます。変化に乗り遅れないよう、常に情報を収集し、企業の健康管理のあり方をその都度考えていかなければいけないと思います。今後も産業保健スタッフ全員で協力して健康管理を進めていきたいです。



梅津 美香 (岐阜県立看大)

私の21世紀へ向けての抱負は、あらゆる職業に従事する人々に対し産業看護活動が行われるような仕組みづくりである。

この春9年間にわたり保健婦として勤めた企業を退職し、教員として産業看護の講義に関わ

ることになった。産業看護活動の事例も織り交ぜた講義が進むにつれて学生達は産業保健への理解を深める一方、中小企業に勤める人々や自営業の人々はどのようなサポートを受けられるのかという点に基本的な疑問を感じるようになってきている。今秋の開講の際、学生に自分の周囲の働く人にインタビューする課題を与えたのだが、飲食店経営など自営業の方にインタビューした者も多くその経験と照らし合わせての疑問のようである。

振り返って私自身はこの疑問にどのように答えていけるかと思う。従来から指摘されているように、現在の日本における労働衛生の枠組みは実際には働くすべての人々をサポートできるようなにはなっていない。例えば、大企業勤務者以外の労働者は疾病や負傷による休業後どのようにして労働生活に再適応しているのだろうか。恐らく作業負荷や業務の内容の調整等が適切に行われるように専門家のサポートを受けることは困難であろう。すでにリストラクチャリングの進行、生産拠地の海外移転などにより各事業場は縮小化傾向にあり、21世紀には中小規模の事業場がさらに増えていくことが予想される。各企業が自らの責任において産業保健活動を充実させていくという方向性のみでなく、より現実的な多方向からのサポートの仕組みを模索していくことで働くすべての人々を対象とした産業保健活動を実現していければと考えている。



北村 哲也 (東芝産業機器製造)

飲み屋では、J-POPが流れ、その横で演歌を歌うオヤジさんが居て、とても一つの文化には思えない状況に遭遇する。これは、たかが20年の差。一方、髪の毛を染め、ピアスでお洒落した男子学生に対して、某教授が「なん

だ、その格好は!女みたいだ!」と顔面を紅潮させながら叱ると、彼は平然と「何故だめなんですか?」と。これが40年の差。更に「戦時中は、貧しくて食べ物にも困って」と話するお婆さんの横で、缶コーヒー飲みながらインターネットしている孫。ここまでくると60年の差。

社会は確実に変わる。常識も変わる。自分だって宇宙ステーションの職場巡視をやる自信はない。(ん?遠隔操作するのかしら)

しかし、皺くちゃな御老人と赤ん坊を見比べながら「なんか似てるよね」と思う時もある。100年違っても、人はすぐには変わらない。変わらない。一度や二度、健康増進の生活指導したって変わらないもん(これは別の話か)。せめて手足が退化して無くならない様に、運動くらいは続けないと、人類の子孫に申し訳ありません。

これからは《明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものかわ》だけでなく、計画的に将来を見据えた内容も必要ですよ。

会員の異動

新入会 岐阜 ①松久智香子(サンライズクリニック) ②美濃輪博英(サンライズクリニック) ③粥川直子(ソニー美濃加茂) ④山根則夫(神田病院) 静岡 ①新島邦行(静岡鉄道健診センター)

所属訂正のご連絡

前号新入会の中で、小嶋雅代様の所属が(名市大・医・衛生)となっておりましたが、(名市大・医・公衆衛生)の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

転入 静岡 ①秋山 泉(東レ三島工場) …九州地方会より ②秋山ひろみ(東芝キャリア健康管理室) …九州地方会より

退会 愛知 ①朱 善寛(名大・医・公衛) ②丹羽吉久(第一コンピュータリリース) ③吉野伸子 ④吉澤香恵子 ⑤滝日久仁子(名大・医・公衛) ⑥深谷幸生(愛知文教女子短大) ⑦林隆行(横浜ゴム新城診療所) ⑧松浦清恵(トヨタ自動車) ⑨

竹尾高明(ノリタケカンパニーリミテッド) ⑩浜田静江(明電舎名古屋事業所) ⑪小島哲爾(東海中央診療所) ⑫杉山龍三(杉山病院) ⑬天野富貴子(日進おりど病院) ⑭宮地卓也 ⑮藤田真智子(大同特殊鋼本社診療所) ⑯加藤美津子(キャンノン販売) ⑰中村利光(三河保健予防協会) ⑱木村敬孝(三河保健予防協会) 静岡 ①中島規博(日立空調システム) ②袴田章二(東レ三島工場) …平成12年10月2日ご逝去 ③田中国広 ④佐野芳美(清水市立看護専門学校) 三重 ①翠川 薫(三重大・医・衛生)

転出 愛知 ①古村敏大(名市大・医・公衛) …近畿地方会へ ②福成雄三(生命情報分析センター) …近畿地方会へ 静岡 ①溝部政史(溝部医院) …北陸甲信越地方会へ

平成 12 年度 東海地方会学会を担当して



井奈波 良一 (岐阜大・医・衛生)

平成 12 年度日本産業衛生学会東海地方会学会は、平成 12 年 11 月 24 日 (金) に岐阜会館を会場として開催されました。幸い好天に恵まれ、質の高い一般演題発表、高名な講師による特別講演に加えて、今回も、日本医師会認定産業医研修会の「基礎・後期」または「生涯・専門」の 3 単位が認定され、また、産業看護職継続教育システム実力アップコース 3 単位も認められたこともあって、134 名 (会員 88 名、非会員 46 名) の参加をいただき、実りある学会になったものと感謝しております。

午前中は、20 題の一般演題が 2 会場で開催されました。第 1 会場では主として作業関連疾患、第 2 会場では主として職業病、メンタルヘルスに分類される演題が発表され、各座長の先生方のご努力で、活発な討論が行われました。午前中の参加者は 93 名でした。

午後は特別講演が 2 題行われました。特別講演 1 は、「これからの産業衛生の課題」と題して竹内康浩先生 (名古屋大学医学部衛生学教授) に示唆に富む講演をしていただきました。先生は、現在の産業衛生の発展のなかで、1) 大学の産業衛生研究の相対的弱体化、2) 産業衛生学の質的問題、3) 学際的な研究協力の相対的な不十分さ、の 3 点に懸念を表明されました。また、21 世紀の労働衛生研究戦略協議会による労働衛生重要課題上位 10 位を紹介され、個人的には、今後、1) リスク評価法の開発と発展、2) 生殖機能障害性の評価と対策、3) 高齢労働者の健康問題、4) 積極的な精神の健康、の 4 点が重要な課題であると考えていると述べられました。さらに労働衛生の発展にはその研究、教育、実践の有機的

な連携が不可欠であることを強調されました。特別講演 2 は、「産業保健と地域保健との強い連携の必要性」と題して岩田弘敏先生 (労働福祉事業団岐阜産業保健推進センター所長) に興味深い講演をしていただきました。先生は、産業保健領域においても問題発生ごとの問題解決型 (法規準拠型) 活動から企業全体でみる職域づくり型 (企業自主型) 活動、単一障害対策のような単純系思考から複合された障害、生活全体も考慮する複雑系思考、分析的思考からシステム思考に転換していかなくてはならないであろうと述べられました。将来的には産業保健、学校保健を包含した地域保健として、地域社会に住むすべての人々が安心して安全に健康的に生活できるようにすることを下位目的にした保健活動をすすめていけば遺漏のない捉え方になるのではないか、現実的には、まずは地域保健と産業保健の連携、それも今まで以上の連携が必要であることを強調されました。

最後に、岐阜大学医学部衛生学講座は、現在、衛生学には無関係に近いテーマを専門とする教授を選考中ですが、この状況のなかで学会開催にあたっての不行き届きの点にお詫び申し上げると同時に、ご協力いただいた各位に厚くお礼申し上げます次第です。

学会プログラム

◆午前の部 一般演題

◆午後の部 竹内康浩地方会長挨拶

【特別講演 1】「これからの産業衛生の課題」

演者：竹内康浩 (名古屋大学医学部衛生学教授)

座長：山内 徹 (三重大学医学部公衆衛生学教授)

【特別講演 2】「産業保健と地域保健との強い連携の必要性」

演者：岩田弘敏 (岐阜産業保健推進センター所長)

座長：竹内宏一 (浜松医科大学公衆衛生学教授)



(特別講演 1. 竹内康浩先生)



(特別講演 2. 岩田弘敏先生)



(一般演題発表)



(会場風景)

第50回 職場精神衛生研究会・第8回産業ストレス学会



井谷 徹 (名市大・医・衛生)

2000年12月1・2日、名古屋国際会議場2号館において第8回日本産業ストレス学会(学会長:井谷徹、小林章雄)が開催された。産業医、保健婦・看護婦、教育研究者など

200人を越える参加者により、熱心に研究発表、討議が行われた。

特別企画としては、特別講演、2題のシンポジウム、グループ討議が企画された。名市大経済学部松村文人教授による特別講演「わが国における雇用環境の現状と将来展望」では、長引く経済低迷の中で、企業は生き残りをかけて様々な改革を試みていることが紹介された。質疑・討論においては、組織改革や経営方針変換に際して、従業員に対する事前説明や情報公開の不十分さが、不必要なストレスを生み出す危険性が指摘された。

シンポジウムⅠ「職場のストレスマネジメントー今日の到達点ー」では、労働省のストレスに関する作業関連疾患研究班での研究成果を中心に、ストレス研究の最近の成果が報告された。報告に基づき質疑・討議が行われ、ストレス概念の整理やストレスの評価方法等の面で、最近大きな進歩があり、今後の職場への応用が期待できることなどが話し合われた。

シンポジウムⅡ「ストレス・マネジメントと労働条件改善」では、ストレス対策としての職場における第一次予防活動=労働条件

改善活動の必要性、期待される効果、具体的な実施方法、実施事例などについて報告が行われた。質疑・討議においては、産業現場において、ストレス対策としての労働条件改善に対する認識を高めるための方策や、改善を効果的かつ継続的に展開するための条件などについて討議が行われた。

グループ討議は、本学会としては初めての試みであったが、職場で発生したうつ状態の事例をもとに、職場の健康管理としての対処策を中心に小グループ討議を行った。全体討議においては、各グループの討議結果の発表後、産業医の役割や企業内システムのあり方、外部医療機関との連携のあり方など幅広い領域の問題について討議が行われた。

一般演題のセッションでは、ストレスやストレスラーの評価法や職域におけるメンタルヘルスケア体制、ストレスと労働条件・生活習慣との関連などに関した14題の発表があった。

本学会は、東海地区ではじめて開催されたということもあり、非学会員が100名以上参加した。しかも、参加者の関心が高く、登録したほぼ全員が会議に出席し、熱心に討議に加わっており、その意味でも盛会であった。しかし、学会としての課題も多く感じられた。「日本ストレス学会」や「職場精神保健学会」「日本産業衛生学会」のストレスや疲労に関する研究会など、関連領域の学会、研究会が多数ある中で、「日本産業ストレス学会」の専門性、特異性を明確にすることの必要性を私は強く感じた。

第36回 アレルギー・免疫毒性研究会



柴田 英治 (名大・医・保健)

第36回アレルギー・免疫毒性研究会(代表世話人・森本兼眞阪大教授)は12月9日午後1時から名古屋大学医学部鶴友会館大会議室で開かれた。すでに1993年に職業ア

レルギーが発足して活動している中、本研究会は1998年にそれまでの職業性アレルギー研究会から改称され、生体が持つ免疫機能全体を視野に入れた研究交流の場になっている。

今回のメインプログラムは白川太郎京大教授による「アトピー疾患の予防戦略の構築」と題する特別講演であった。白川教授はアレルギー疾患の発生を規定する因子として固体側の要因と環境要因を挙げられ、これらが相互に関連をもちながら発症に至ることを豊富なデータを示しながら解明された。個体のライフスタイル、環境中の有害因子が発症に大きく関わっていることがわかる一方で、アトピー疾患に関連する遺伝子が明らかになり、理論的にはDNA診断によって個々の作業者の遺伝子上的リスクレベルがある程度わかってしまう。このことを受けて、遺伝子研究の成果を現実の産業保健の現場に生かす上では倫理上の問題をどのように考えるのかという問いかけも行なわなければならないことが討論された。白川教授はもともと研究者としての出発点が呼吸器内科分野であり、職業性喘息などの研究での行き詰まりから、少し研究の角度を変えてはとのアドバイスを受け、アレルギー関連遺伝子の研究に入ったとの経験談には研究者に最も必要な柔軟性の大切さを改めて感じさせられ

た。留学先のイギリス・オックスフォード大学でこの分野での文字通り世界最先端の数々の成果を上げられ、その業績は産業保健分野にとどまらず、臨床・基礎の幅広い分野から注目されるようになっていく。また、京都大学に赴任されて日が浅いが、今後本学会とともに日本の医学界をリードするような活躍が期待される。

特別報告では本研究会の取り組みとして行なわれた職業性アレルギー症例収集活動が紹介された。この活動はすでに一冊の症例集として具体化されている。がん登録の取り組みががん研究に大きな役割を果たしているのと同様、この症例収集活動が職業性アレルギーの研究、現場での予防活動などに果たす役割は大きいことであろう。症例集が大いに利用されること、及びさらに本活動が発展することを期待したい。

本研究会の東海地方会での受け持ちは、名古屋で産業衛生学会が開かれた1995年以來のことであり、今回のプログラムにはこの地方のアレルギー関連の各分野から5名の研究者による特別報告が行なわれた。この地方だけでも職業性アレルギーに関心を持つ幅広い人材が活躍していることが示され、この分野での研究の発展についても当地方会の果たすべき役割が大きいことを感じさせるものであった。

基礎的な研究が発症のメカニズムを明らかにし、臨床分野の研究が疾病発生の実態と治療法を解明し、労働衛生の研究者が現場での有害因子の発生状況を示すとともに実践家は疾病予防活動を行なうという全体の動きが理解しやすい形で呈示された研究会であった。

学会・研究会

第49回 職場精神衛生研究会

高崎 正子 (東芝四日市)

2000年10月13日名古屋大学鶴友会館において、大同特殊鋼(株)星崎工場 斎藤政彦先生より「わが社におけるこころの健康対策」というテーマでご講演いただきました。産業医・保健婦による全局面談や管理・監督者への教育、外部相談機関との連携など、さまざまな活動を展開している中で、今回は独自に作成したストレス度チェック問診表の活用方法についての報告が、貴重な資料提供をもとに行われました。会場にて活発な意見交換が行われましたが、その中でも重要なフィードバック方法について、例えば①ストレス反応は健康管理、ストレスの要因分析は職場環境管理に分ける②高得点者の疾病傾向をつかむ③職場単位でまとめて特徴を知る④経済面(医療費)とストレスの関係を提示するなどの方法で、様々な面から分析を重ねると、さらに情報活用の幅が広がるとの会場からの意見が印象に残りました。フィードバック方法については、情報だけが一人歩きする可能性もあり、提示には慎重さが必要な上に、現場サイドが理解しやすい表現が求められるという難しさがあります。提示方法についてはこれが正しいというマニュアルがなく、個々での検討が求められる分野だけに、今回のような研究会で意見交換できたことは、今後の活動を始めるにあたり大変参考になりました。

第10回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会

黒谷 万美子 (キクチメガネ)

平成12年10月23日～24日の2日間にわたり、富山県富山市の富山国際会議場において、第10回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会が開催された。

特別講演、シンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションなどのプログラムが用意され、それぞれの会場で熱のこもった討論が行われた。特別講演は、日本ヒューマンファクター研究所の黒田勲先生により「日本産業における安全文化の変化」というテーマで行われた。人間特性を知った上での安全の考え方とアプローチ、企業リスクとリスクマネジメントについて事例を交えて話された。

シンポジウムは、部会ごとのシンポジウムの後、「産業現場における危機管理」をメインテーマに、東海村核関連施設臨界事故や松本サリン事件の教訓を活かした危機管理のあり方及び富山県における最近の労働災害事故とその対策について報告された。

ワークショップは、「中小企業における産業保健活動推進のための産業医の役割」「職場におけるメンタルヘルスに関する最近の話題」「産業保健推進センターと産業保健スタッフとのかかわり」と3会場に分かれて行われ活発な質疑応答がかわされた。

ポスターセッションは、21題の発表が行われ会場内のあちこちで、発表者と参加者が自由に討議を行い、積極的な交流が見られた。

それぞれの会場において活発に意見が交わされる熱意にあふれた協議会で、有意義な時間を過ごさせていただいたと感じている。

第28回 有機溶剤中毒研究会

上島 通浩 (名大・医・衛生)

第28回有機溶剤中毒研究会は、竹内康浩世話人のもと10月27～28日に三重県鳥羽市の松珠荘で開催され、2題の特別講演と16題の一般口演が行われた。初日の特別講演は、旭硝子(株)化学品事業本部の北村健郎先生に、「洗浄剤を中心とした有機溶剤の動向と展望」についてお話しいただいた。洗浄は、日常生活から高度な産業分野までを支える重要な技術で、全廃された特定フロン等オゾン層破壊溶剤を代替する技術を安全性に配慮して開発することは大きな課題であると話された。2日目の特別講演は、名古屋大学大学院農学研究科の前多敬一郎

先生が、「環境因子と生殖機能」というタイトルで話をされた。雌の生殖機能はストレス下で抑制されるが、これは黄体形成ホルモン分泌の抑制によるエストロゲン依存性の反応であることをわかりやすく解説された。一般演題は、トリクロロエチレン使用職場で発生した皮膚・肝障害、皮膚吸収試験、神経障害機序の実験的検討、生物学的モニタリング、PCBの分析法、溶剤中毒症例収集活動のまとめ、プロモプロパン類の生殖・神経毒性、HCFC-123による肝障害、トリエチルアミンによる視覚障害、小規模事業所でのMSDS使用状況など多彩な内容で、活発な議論が行われた。

今回の研究会は、フロン代替溶剤をはじめ新しい中毒に関する演題が目立ち、ベンゼンやヘキサン中毒多発の時代に続く重要な時期であると改めて感じた。初めての参加者も多く、一泊二日の研究会は相互の親睦と議論を深める良い機会となった。来年は岸玲子北大教授のもとで開催される。

これからの諸行事予定

1. 第2回 労働衛生活動評価研究会

日 時：2001年1月12日(金) 13:30～17:00

場 所：サマニアンホール 八神製作所 8F

[講演1] 「医療費から見た産業保健活動の評価」

後藤義明(ブラザー工業・産業医)

座 長：巽 あさみ(藤田保健衛生大学衛生学部)

[講演2] 「EBMによる健康診断」

矢野栄二(帝京大学医学部教授)

座 長：小野雄一郎(藤田保健衛生大学医学部)

2. 第14回振動障害研究会

日 時：平成13年2月17日(土) 13:30～16:00

場 所：名古屋大学医学部会議室(基礎棟2階)

演 題：1. 手腕振動と労働衛生

米川 善晴(労働省産業医学総合研究所)

2. 工作機械メーカーでの防振対策の取り組み

畷山 常人(マキタ総合研究所副所長)

3. 手腕振動に関するISOの最近の動向

前田 節雄(労働省産業医学総合研究所)

4. 振動障害の診断に関する国際ワークショップ

(2000.9.11～13)

榎原 久孝(名古屋大学医学部保健学科)

3. 第5回職域肺疾患管理研究会

期 日：平成13年3月3日(土) 14:00～16:30

場 所：名大付属病院(鶴舞)新東棟8階 大会議室

参加費：無料

講 演：タバコの害と禁煙の有効性を総括する

一呼吸器障害を中心とした疫学的並びに臨床的見地から一

岩田全充(トヨタ記念病院 呼吸器科)

討 論：「事例からみた喫煙対策、禁煙指導の現状と今後の課題」

<話題提供>

1. 医療機関における禁煙教室の現況について

岩田全充(トヨタ記念病院 呼吸器科)

2. 企業における喫煙対策の実際

一分煙対策・禁煙サポートの取り組み一

寺澤哲郎(東海銀行・産業医)

3. 個別禁煙サポートの実際

一大阪がん予防検診センターの個別禁煙指導プログラムを用いて一

間宮とし子(東海銀行・保健婦)

4. ニコチンパッチを用いた禁煙支援の取り組み

一分散事業所を対象とした非面接方式について一

黒谷万美子(キクチメガネ・保健婦)

4. 第16回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

日 時：平成13年3月9日(金) 10:00～16:45

場 所：産業技術記念館大ホール TEL 052-551-6111

会 費：8,000円(昼食代含む)

事務局：名大・医・衛生 TEL 052-744-2124

一午前部一

開会の挨拶・オリエンテーション

講演 「健康日本21について」

春日井保健所 主任専門員 吉田 宏
座長 愛知産業保健推進センター 和田 晴美

講演 「肥満の減量指導の実際」

東京慈恵会医科大学 健康医学センター 大野 誠
座長 愛知産業保健推進センター 和田 晴美

一午後の部

講演 「笑門来福」

大須演芸場 席亭 足立 秀夫
座長 愛知医科大学 衛生学 渡邊美寿津

講演 「化学物質による健康障害とその予防対策」

名古屋大学大学院医学研究科 環境労働衛生学教授 竹内 康浩
座長 名古屋大学医学部保健学科 助教授 柴田 英治

閉会の挨拶

5. 第7回日本行動医学会(第51回職場精神衛生研究会と合同開催)

期 日：平成13年3月16日(金)17日(土)

場 所：愛知医科大学

会 長：小林章雄(愛知医科大学衛生学教授)

会 費：5,000円 研修会費：8,000円(うち資料代1,000円)

懇親会費：5,000円

平成13年3月16日(金) 10:30~17:10

基調講演 「The major trends in behavioral medicine」
Professor Stephen Weiss(Department of Psychiatry and

Behavioral Medicine, University of Miami School of Medicine, USA)

シンポジウム 「睡眠と健康」

市民公開シンポジウム 「子どもの心・体と環境への行動医学的アプローチ」

18:00~19:30 懇親会(愛知医科大学大学本館内レストラン、オレンジ)
平成13年3月17日(土) 9:30~19:20

一般演題

日本行動医学会研修会(愛知医科大学医師会主催)

「今日の労働衛生行政の動向と課題」

河村幸治郎(愛知労働基準局労働衛生課)

「労働負担・職業性ストレスの健康影響—循環器系を中心に」

小林 章雄(愛知医科大学衛生学講座)

「職場における糖尿病と行動医学」

石井 均(天理よろづ相談所病院内分泌・糖尿病センター)

「産業神経行動学からのアプローチ」

横山 和仁(東京大学公衆衛生学教室)

「職業の健康づくりにおける行動医学的展開」

下光 輝一(東京医科大学衛生・公衆衛生学教室)

「Evidence Based Medicine と職場の健康管理」

橋本 淳(県立愛知病院総合内科部)

「職場のメンタルヘルスケア」

芦原 陸(中部労災病院心療内科)

財団法人 愛知健康増進財団

会 長 安部 浩平
理 事 長 赤塚 邦夫
診療所長 小倉 幸夫

〒462-0844 名古屋市中区清水1-18-4 TEL(052)951-3331(代)

社団法人 岡崎市医師会公衆衛生センター

岡崎地域産業保健センター
人間ドック・集団健診・臨床検査
〒444-0875 岡崎市奄美西1丁目9番1
TEL (0564) 52-1572 (代表)

財団法人 岐阜県産業保健センター

理 事 長 籠橋 久衛
診 療 所 長 加藤 保夫
〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3
TEL(0572)22-0115

医療法人 光生会病院

〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地
TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407

(社福) 聖隷福祉事業団
聖隷健康診断センター

所長 大條 浩
〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501

社団法人 瀬戸健康管理センター

理 事 長 加藤 庄右
診 療 所 長 坪井 靖治
〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466



医療法人 愛知集団検診協会
愛知健診所

〒496-0048 津島市藤里町2-3-1
TEL (0567) 26-7328番
FAX (0567) 26-7994番

社団法人 オリエンタル労働衛生協会

会 長 鈴木 正雄
理 事 長 高須 靖夫
〒464-0850 名古屋市中千種区今池一丁目8番4号
TEL (052) 732-2200

財団法人 公衆保健協会

〒453-0813 名古屋市中村区二ツ橋町4丁目4番地
TEL(052)481-2161(代表) FAX(052)481-7847
ホームページアドレスhttp://www2.cjn.or.jp/~phamail

財団法人 美容協会 聖隷沼津第一クリニック
聖隷沼津健康診断センター

所長 中島 容一郎
〒410-8580 沼津市本字下一丁目895-1
TEL(0559)62-9882 FAX(0559)52-1019

(社福) 聖隷福祉事業団
聖隷予防検診センター

所長 白田 多佳夫
〒433-8558 浜松市三方原町3453-1 TEL(053)439-1111

健診健康総合サービス

(財)全日本労働福祉協会東海支部

支部長 菅原 望
〒457-0044 名古屋市中区柵下町2-4 TEL (052) 822-2525

謹賀新年



会員の表彰

労働大臣功績賞：服部 啓一（岐阜県産業保健センター）

地方会理事会

平成12年度第3回理事会

日 時：平成12年9月5日（火） 15：00～16：00

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館2階大会議室

出 席：22名 委任状39名

報告事項 (1)事務局からの連絡事項（柴田）(2)本部からの連絡事項（竹内）(3)関連学会・研究会 1)国際労働衛生会議（竹内） 2)国際人間工学会（井谷、城） 4)学会専門医試験、専門医制度（吉田、竹内）

協議事項 (1)地方会ニュース第50号（谷脇）(2)平成12年度東海地方会学会（井奈波）(3)関連学会・研究会 1)第49回職場精神衛生研究会（小林） 2)第28回有機溶剤中毒研究会（竹内） 3)第35回アレルギー・免疫毒性研究会（竹内） 4)第8回産業ストレス学会（井谷） 5)第2回産業衛生技術部会準備会（竹内） 6)第48回日本職業・災害医学会学術大会（竹内） 7)第2回労働衛生活動評価研究会（吉田） 8)産業保健活動評価委員会（井谷）(4)その他 1)産業看護講座 短縮Nコース 第7回（荻田） 2)静岡県産業看護活動状況（青山） 3)理事会交通費の支払方法について（竹内）

平成12年度第4回理事会

日 時：平成12年11月7日（火） 15：00～16：00

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館2階大会議室

出 席：22名 委任状33名

報告事項 (1)事務局からの連絡事項（柴田）(2)本部からの連絡事項（竹

内）(3)関連学会・研究会 第28回有機溶剤中毒研究会（竹内）
協議事項 (1)地方会ニュース第51号（長岡）(2)平成12年度東海地方会学会（井奈波）(3)第16回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会（寺澤）(4)関連学会・研究会 1)第8回日本産業ストレス学会（城） 2)第35回アレルギー・免疫毒性研究会（竹内） 3)第7回労働と健康研究会（城）

編集後記

明けましておめでとうございます。いよいよ21世紀を迎えることとなりました。昭和59年から始まった地方会ニュースは、今回で第51号を発刊することになり、本号では新世紀の発刊を記念し、1ページめに、これまでの第1号から第50号までの表紙部分を掲載する事にしました。これを機にあらためて過去の地方会ニュースを振り返ると、そのときの労働衛生における活動状況がよく理解され、またこれほど充実した内容で継続してきたことに感心しました。これからは過去の誌面に負けないよう、新しい構想のもとに、新世紀のニュース誌面づくりをしていきたいと考えておりますので、会員皆様のご支援を宜しくお願いいたします。（長岡 芳）

次回発行 平成13年5月1日

編集責任者 谷脇弘茂（藤田保衛大）

編集委員（五十音順）

- 浅井八多美（聖隷予検センター） 市原 学（名大）
- 加藤保夫（岐阜県産業保健センター） 後藤内治郎（住友軽金属）
- 五藤雅博（旭労災病院） 後藤義明（ブラザー工業）
- 榊原久隆（名大） 高柳泰世（本郷眼科）
- 城 憲秀（名市大） 巽あさみ（藤田保衛大）
- 寺澤哲郎（東海銀行） 長岡 芳（藤田保衛大）
- 松田 元（松下電工四日市） 松本忠雄（愛知県江南保健所）
- 武藤繁貴（聖隷健診センター） 山田琢之（なごや労働衛生コンサルタント）
- 吉田 勉（藤田保衛大） 渡邊美寿津（愛知医大）

GHL 社団法人 加茂医師会立 総合保健センター

〒505-0046 美濃加茂市西町7丁目169番地
TEL (0574) 25-5324 FAX (0574) 25-0480

医療法人 九愛会

中京サテライトクリニック

理事長 宮嶋 忍

〒470-1101 愛知県豊明市沓掛町石畑180番地の1
TEL (0562) 93-8225(代) FAX (0562) 93-0938

(医) 豊昌会

豊田健康管理クリニック

理事長 加藤 昌平

〒473-0907 豊田市竜神町新生155番地 TEL (0565) 27-5550
FAX (0565) 27-5036



医療法人 名翔会 名古屋セントラルクリニック

〒457-0047 名古屋市中区城下町3丁目14番地
TEL (052) 821-0900(代) FAX (052) 824-0655

医療法人

日本生命ヘルスコンサルタント

理事長 沼田 輝夫

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2
日本生命笹島ビル6F
TEL (052) 582-0751 FAX (052) 582-6968



社団法人 半田市医師会健康管理センター

所長 榊原 幹雄

〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL (0569) 27-7881

(医) 宏潤会 大同病院

理事長 石原 晃
院長 西脇 洋

〒457-8511 名古屋市中区白水町9番地 TEL (052) 611-6261

財 東海検診センター

理事長 宮崎 勘治
診療所長 斉藤 俊二

〒410-0003 沼津市新沢町8-7
TEL (0559) 22-1157
FAX (0559) 23-5078



名古屋市医師会協同組合 名古屋市医師会健診センター

理事長 高澤 嘉人

〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目4番38号
TEL (052) 937-8460 FAX (052) 937-7893



医療法人 大医会 日進おりど病院

〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地
TEL 05617 (3) 7771 FAX (3) 6159

(財) 日本予防医学協会 名古屋出張所 健康フォーラム名古屋談話室

〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18
TEL (052) 931-0526 FAX (052) 932-7092

財団法人 三河保健予防協会

理事長 由利 卓也

〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL 0533-86-1515

謹
賀
新
年

平成十三年元旦